

いわゆる引用の助詞～ッテの機能と用法

言語学・応用言語学専攻
2007（平成 19）年入学

1LT07059E 重松美香

2010（平成 22）年 1 月提出

要旨

本論文は、いわゆる引用の助詞「～ッテ」の、引用以外の機能と用法を体系化することを目的とする。時間もしくは場所的に違う時点で与えられたコトバを再現することを「引用」と考えた上で、「～ッテ」と言い換えられる他の助詞に注目して、「引用」を更に「引用」・「伝聞」・「問い返し」・「心中表出」の4つに分類する。「引用」は、藤田（2000）に従い、第Ⅰ類と第Ⅱ類に分ける。また、「心中表出」も「～ッテ」が持つ意味合いの違いから、「思考内容伝達」と「押し付け」の2つに区別する。更に、「引用」とは大きく異なる使い方として、話題を引き出す「～ッテ」と逆接を表現する「～ッテ」の2種類があることを挙げる。話題を引き出す「～ッテ」は、更に、引用文にくる形や、「～ッテ」に後続する形の制限によって3種類に分類される。「～ッテ」文と言い換えた他の助詞の例文を比べながら「～ッテ」の機能と用法を明らかにし、引用文や「～ッテ」に後続する形の制限についても調べていく。

目次

1. はじめに.....	1
2. 引用に分類される「～ッテ」	2
2.1. 直接引用の「～ッテ」	2
2.1.1. 第Ⅰ類	3
2.1.2. 第Ⅱ類	4
2.2. 伝聞の「～ッテ」	5
2.3. 問い返しの「～ッテ」	5
2.4. 心中表出の「～ッテ」	7
2.4.1. 思考内容伝達の「～ッテ」	7
2.4.2. 押し付けの「～ッテ」	8
3. 話題を引き出す機能を持つ「～ッテ」	9
3.1. 「～ハ」に言い換えられる「～ッテ」	9
3.1.1. 「～ッテ」と「～ハ」	10
3.2. 「～トハ」に言い換えられる「～ッテ」	10
3.3. 「～トイウ」に言い換えられる「～ッテ」	12
3.4. まとめ	12
4. 逆接の機能を持つ「～ッテ」	13
5. 先行研究との比較.....	15
5.1. 森重敏 (1965).....	15
5.2. 三枝令子 (1997).....	15
5.2.1. 引用の「って」	15
5.2.2. 逆接の「って」	16
5.3. 三枝(1997)に対する指摘	17
6. まとめ.....	18
参照文献.....	19

1. はじめに

本論文は、「～ッテ」が文中に用いられている「～ッテ」文を考察する。一口に「～ッテ」文と言っても、(1a)のように、発話時点以前に聞いた今日子の発言を発話時で再現した引用文を示す引用助詞としての働きをしているものもあれば、(1b)の例のように引用文を示す働きをしているとは言えないものも存在する。

- (1) a. 今日子が、私も行くって言ってくれて本当に頼もしかった。
b. [試験が思うようにいかなかった友達に対して]
そんなに心配しなくても大丈夫だって。

本研究では、こうした話し言葉でよく見られる「～ッテ」について、テがどんな助詞と言い換え可能か比較することを通じて、最も多く使われる引用の用法以外にどのような用法や特徴があるのかを明確にし、その用法が使われる際の制限を明らかにしていく。

なお本論文では、岩男（2005）に倣い、「～ッテ」文の記述および説明に、以下の用語を使用することにする。

- (2) a. 話し手：発話「～ッテ」を行う者
b. 聞き手：それを聞く者
c. 引用文：発話「～ッテ」の「～」部分のこと
d. 引用構文：引用文を含む文全体を「引用構文」
e. 元話者：引用文の元々の話者

これらを例示すると、以下のようになる。

- (3) [太郎<話し手>が 花子<聞き手>に対して]
今日子が、私も行くって言ってくれて、本当に頼もしかった。
元話者 **引用文**

また、「～ッテ」文の意味用法についても、これからの考察のために大きく3つに大別しておく。(4)を見てほしい。(4a)は、大橋さんが以前言ったことを再現する**引用**であるが、(4b,c)は引用を表しているとは言い難い。それは、(4b,c)の「ッテ」が、それぞれ逆接のテモ、主題のハと置き換えても意味が大きく変わらないことからもうかがえる。

- (4) a. 大橋さんが、5組に新しい転校生が来るって言ってたよ。 (引用)
b. 所詮どんなにお金があったって、一人だったら満たされないよ。 (逆接)
c. 中牟田さんって来年の4月からどこで働くんだっけ？ (主題)

この点を重視して、引用以外の「～ッテ」文について、テモという接続助詞と置き換え可能な(4b)のような「～ッテ」文を**逆接**、また(4c)のように、引用でも逆接でもない、主題のハなどに置き換え可能な「～ッテ」文を**主題**と呼ぶことにする。

以下では引用から始め、主題、逆接の順で、考察を進めていく。まず第2章では、引用について見ていく。引用の「～ッテ」文を見る際には、引用元の元話者が誰であるかによって、その特性が異なってくる。

2. 引用に分類される「～ッテ」

引用の「～ッテ」は更に直接引用、伝聞、問い返し、心中表出の4つに分類する。これらは引用文の主語によって分けられる。4つに共通する特徴として、「所与とみなされるコトバを再現したもの」が挙げられる。所与とは、その引用構文が発話される以前に一度どこかで何者かによって与えられた発話ということである。

2.1. 直接引用の「～ッテ」

直接引用の機能を持つ「～ッテ」の特徴を以下に挙げる。

- (5) 直接引用の機能を持つ「～ッテ」の特徴
- 「～ト」に言い換えても元の文と意味が全く変わらない。
 - 「～ッテ」には発言内容を表す動詞が後続することが多い。
 - 引用文の主語が特定されている。

以下の例文における「～ッテ」は、引用表現として用いられる。いわゆる引用を辞書で引いて見ると、大辞林では『古人の言や他人の文章、また他人の節や事例などを自分の文章の中に引いて説明に用いること。』、日本国語大辞典によると、『自分の論の拠り所などを説明、証明するために、他人の文章や事例または古人の言を引くこと。』とある。これらの意味を簡単に、また日常的に私たちが使用する意味に直してみると、「他人の言葉を自分の話に引いてきて用いる」と言えるだろう。ただし、一般的な日常レベルでの「引用」で考えるとその定義が曖昧になってしまうので、本稿では(藤田 2000)より、「引用」とは『所与と見なされるコトバを再現しようとする形で示すもの』とする。

また藤田 (2000)では、引用句を更に第Ⅰ類と第Ⅱ類の二群に大きく分けている。

- (6) 第Ⅰ類—述部が引用句の発言・思考と事実上等しい動作・状態を表す。
第Ⅱ類—述部が引用句の発言・思考と共存する動作・状態を表す。
- (7) a. レストランの店員さんが、「これ忘れてますよ」って叫んでいた。(第Ⅰ類)
b. レストランの店員さんが、これ忘れてますよって走ってやってきた。(第Ⅱ類)

本稿においても、直接引用の機能はこの藤田 (2000)の分類に従うこととする。直接引用の機能を持つ「～ッテ」文には、発言内容を表す動詞もしくは発言内容と共起する動詞が後続する。

- (8) 発言内容を表す動詞
言う、叫ぶ、命令する、誘う、つぶやく、尋ねる、約束する、だます、歌う等
- (9) 発言内容と共起する動詞
肩をたたく、頷く、心配する、睨み付ける、抱きしめる等

ただし、これらの動詞が後続すると読み取れる場合は、動詞が省略されていても引用の機能を持つものとする。

直接引用の特徴として、引用文の主語が特定されている、という点が挙げられる。

- (10) 絵里佳ちゃんが「今日は早く帰ってきて」って頼んでいたよ。

(10)の例文では、「今日は早く帰ってきて」という引用文の主語が「絵里佳ちゃん」であると

特定出来る。このように直接引用の場合は、話し手でも、聞き手でも、第三者でも、誰が主語か特定されているという特徴を持つ。

また、直接引用の「～ッテ」は、「～ト」の言い換え、またはよりくだけた言い方として話し言葉などでよく見られる。以下からは、「～ト」に言い換えた例文とともに「～ッテ」文を見ていく。

2.1.1. 第 I 類

直接引用の機能を持つ「～ッテ」の中で、述部が引用句の発言・思考と事実上等しい動作・状態を表す「～ッテ」文の例文を以下に挙げる。

- (11) a. 期末は点数が悪かったらしく、宏紀くん次は勉強頑張るって言ってたよ。
b. 期末は点数が悪かったらしく、宏紀くん次は勉強頑張ると言ってたよ。

この例文では、引用構文が発せられるより以前に宏紀くんが「次は勉強頑張る」と発話しており、そのコトバを「言ってたよ」という引用構文が発せられた時点で再現していると考えられる。従って、この例文における「～ッテ」の用法は引用であると言える。また、「～ッテ」文である引用句が述部「言ってたよ」の内容であり、等しい動作であるので、第 I 類と言える。以下の例文も同じように考える。

- (12) a. 今日子が、私も行くって言ってくれて本当に頼もしかった。
b. 今日子が、私も行くと言ってくれて本当に頼もしかった。
- (13) a. 幼馴染の近所のお兄ちゃんには大きな夢があるんだって聞いた。
b. 幼馴染の近所のお兄ちゃんには大きな夢があるんだと聞いた。
- (14) a. 「彼だけなんで無言なの？」「眠たいんだって言ってたよ」
b. 「彼だけなんで無言なの？」「眠たいんだと言ってたよ」
- (15) a. (学校に遅刻したのに先生の物真似をした息子に) お父さんが「ふざけるな」って怒鳴っていた。
b. (学校に遅刻したのに先生の物真似をした息子に) お父さんが「ふざけるな」と怒鳴っていた。
- (16) a. 佐々木先生はいつも、「いつまでも親に甘えたらだめだ」って言う。
b. 佐々木先生はいつも、「いつまでも親に甘えたらだめだ」と言う。
- (17) a. おばあちゃん曰く、母は何でもお見通しだって。
b. おばあちゃん曰く、母は何でもお見通しだと。
- (18) a. お母さんが「時間に間に合わないから早くしなさい」って言ってたよ。
b. お母さんが「時間に間に合わないから早くしなさい」と言ってたよ。
- (19) a. 江頭教頭が、「今日は遠足だけとお菓子を持ってきたらだめだ」って注意する。
b. 江頭教頭が、「今日は遠足だけとお菓子を持ってきたらだめだ」と注意する。
- (20) a. 隣の家の大きな犬がお腹がすいたって鳴いている。
b. 隣の家の大きな犬がお腹がすいたと鳴いている。

- (21) a. (数学の教科書を開きつつ) この宿題いつまでって言ってた?
 b. (数学の教科書を開きつつ) この宿題いつまでと言ってた?

(12)の例文では、引用文である「私も行く」という発言が、引用構文の述部である「って言ってくれて」と等しい動作を表している。

2.1.2. 第Ⅱ類

引用の機能を持つ「～ッテ」の中で、述部が引用句の発言・思考と共存する動作・状態を表す「～ッテ」文の例文を以下に挙げる。

- (22) a. 先生は受験生である私たちのことが心配だって泣いた。
 b. 先生は受験生である私たちのことが心配だと泣いた。
- (23) a. 心細そうな私を前にして、母は大丈夫だよ、って頷いた。
 b. 心細そうな私を前にして、母は大丈夫だよ、と頷いた。
- (24) a. (大事な試合が近づいてきて心配そうな私に) 先生はいつもどおりやってこいって背中を押してくれた。
 b. (大事な試合が近づいてきて心配そうな私に) 先生はいつもどおりやっとこいと背中を押してくれた。
- (25) a. お姉ちゃんはいつも私が辛い時に、泣いて良いよって胸を貸してくれる。
 b. お姉ちゃんはいつも私が辛い時に、泣いて良いよと胸を貸してくれる。
- (26) a. 理不尽なことばかり言う先輩を、いい加減にしろって睨み付ける。
 b. 理不尽なことばかり言う先輩を、いい加減にしろと睨み付ける。
- (27) a. お母さんは、家出していた猫を見つけて、大好きだよってきつく抱きしめた。
 b. お母さんは、家出していた猫を見つけて、大好きだよときつく抱きしめた。
- (28) a. いつもは皆がいるのに、今日は一人って寂しがるな。
 b. いつもは皆がいるのに、今日は一人と寂しがるな。
- (29) a. あの2人は、学校でも放課後も休日も、いつも一緒って噂になっている。
 b. あの2人は、学校でも放課後も休日も、いつも一緒と噂になっている。

(22)の例文では、引用文である「心配だ」と引用構文の述部である「泣いた」が事実上等しい動作とは言いがたい。この場合、「大好きだよ」と思ったことと、「きつく抱きしめた」という動作が同時に起こっただけであるので、引用句と述部が共存していると考えられる。

鎌田(2000)では、一般に、引用という言語行為の結果生産され、そして、それを含みこむ(あるいは、「埋め込む」)地の文と何らかの形で境界線を持つ表現を「引用句」とか「引用節」と呼び、引用句を含む文全体を「引用表現」と呼んでいる。これは、本稿において「～ッテ」文が直接引用の機能を持つ場合にのみ、「引用文」と「引用構文」にそれぞれ対応していると考えられる。この考えで上記の例文を見てみると、全て引用文が発せられた時点と、引用文を含む引用構文の発せられた時点が時間という観点において一致しない。これは、鎌田(2000)で考えると、引用句と引用節に何らかの(この場合は時間)境界線が存在していることになる。ゆえに、これらは直接引用という機能を持つ「～ッテ」だと言える。

2.2章からは、直接引用以外の用法に注目して「～ッテ」を見ていく。

2.2. 伝聞の「～ッテ」

伝聞の機能を持つ「～ッテ」の特徴を以下に挙げる。

(30) 伝聞の機能を持つ「～ッテ」の特徴

- a. 「～ラシイ」に言い換えても元の文と意味が全く変わらない。
- b. 文末が「～ッテ」
- c. 引用文の主語が不特定

以下の例文は、「～ラシイ」に言い換えても同じ意味を表す「～ッテ」文である。

(31) a. 今年の風邪はひどいって。

b. 今年の風邪はひどいらしい。

(32) a. 来週の木曜日は学校休みって。

b. 来週の木曜日は学校休みらしい。

(33) a. このチョコレート、今年爆発的に売れたって。

b. このチョコレート、今年爆発的に売れたらしい。

(34) a. この俳優が主演の映画、沢山宣伝していたわりに面白くないって。

b. この俳優が主演の映画、沢山宣伝していたわりに面白くないらしい。

(35) a. 紅葉を見に行くなら、学校の近くの山が綺麗って。

b. 紅葉を見に行くなら、学校の近くの山が綺麗らしい。

これらの例文は、直接引用の機能を持つ「～ッテ」文に似ているが、文が「～ッテ」で終わっていることと、引用文の発話者が不特定であるという違いがある。この場合、所与のコトバを再現したものではあるが、直接引用とはみなさず「伝聞」と分類することにする。

(36) a. 来週の木曜日は学校休みって。

(伝聞)

b. 佐々岡君が、「来週の木曜日は学校休み」って言ってたよ。

(直接引用)

(36)のように、伝聞と分類した文に引用文の発話者と発言内容を表す動詞を後続させると直接引用の機能を持つ「～ッテ」文になる。

2.3. 問い返しの「～ッテ」

問い返しの機能を持つ「～ッテ」の特徴を以下に挙げる。

(37) 問い返しの機能を持つ「～ッテ」の特徴

- a. 「～トハ」または「～ト」に言い換えても元の文と全く意味が変わらない。
- b. 「～ッテ」が文末にくる場合も、動詞が後続する場合もあるが、いずれも疑問文である。
- c. 引用文の内容が、引用構文の聞き手の直前の発話である。

以下の例文における「～ッテ」は、引用構文の話し手が、会話の相手の直前の発話を聞いて疑問に感じたこと、反発の念を抱いたことを相手に伝える機能を持つ。直前の発話をそのまま引用する場合だけでなく、直前の発話を受けて引用文の発話者が解釈したものがくる場合もある。

- (38) a. 「そういえば、例の彼は来月から東京へ転勤らしいよ」
「例の彼って？」
b. 「そういえば、例の彼は来月から東京へ転勤らしいよ」
「例の彼とは？」
- (39) a. 「3年生の先輩が今めっちゃ大変な事件に巻き込まれてるって噂知ってる？」
「大変な事件って？」
b. 「3年生の先輩が今めっちゃ大変な事件に巻き込まれてるって噂知ってる？」
「大変な事件とは？」
- (40) a. 「会議が長引いて今日はもう遅いし、明日はまた朝から出張でしょう？」
「だから今日は帰れって？」
b. 「会議が長引いて今日はもう遅いし、明日はまた朝から出張でしょう？」
「だから今日は帰れと？」
- (41) a. 「せっかく作ってくれて本当申し訳ないんだけど、今お腹の調子が悪くて…」
「ご飯食べないって？」
b. 「せっかく作ってくれて本当申し訳ないんだけど、今お腹の調子が悪くて…」
「ご飯食べないと？」
- (42) a. 「ちゃんとダイエットしようと思ったんだけど～今お正月だしね」
「正月だから食べていいって？」
b. 「ちゃんとダイエットしようと思ったんだけど～今お正月だしね」
「正月だから食べていいと？」

(38),(39)は直前の発話をそのまま引用した場合であり、(40)～(42)は直前の発話を受けて、引用文の発話者が解釈して発した引用構文である。引用文が体言の場合は「～トハ」で問い返しの意味になるが、引用文が用言の場合は「～ト」の言い換えしか出来ない。以下は、引用文が体言の場合は「～ト」で言い換えられない、引用文が用言の場合は「～トハ」で言い換えられない例文である。

- (39)' a. 「3年生の先輩が今めっちゃ大変な事件に巻き込まれてるって噂知ってる？」
「大変な事件って？」
b. 「3年生の先輩が今めっちゃ大変な事件に巻き込まれてるって噂知ってる？」
*「大変な事件と？」
- (41)' a. 「せっかく作ってくれて本当申し訳ないんだけど、今お腹の調子が悪くて…」
「ご飯食べないって？」
b. 「せっかく作ってくれて本当申し訳ないんだけど、今お腹の調子が悪くて…」
*「ご飯食べないとは？」

(39)'の例文では引用文が「大変な事件」という体言であり、「～ト」に言い換えると文自体が日本語として非文となる。(41)'の例文は引用文が「ご飯食べない」という用言であり、「～トハ」に言い換えると文自体は日本語として容認出来るが、「ご飯食べないということ？」という意味を持つ「～ッテ」の例文とは意味が変わり、「ご飯食べない」とはどういうことか、という意味になってしまう。

2.4. 心中表出の「～ッテ」

心中表出の機能を持つ「～ッテ」の特徴を以下に挙げる。

(43) 心中表出の機能を持つ「～ッテ」の特徴

- a. 「～ト」または「～ヨ」に言い換えても元の文と全く意味が変わらない。
- b. 思考内容を伝達する用法と、思考内容を相手に受け入れることを促す用法の二種類に分けられる。
- c. 引用文の主語が話し手で、心の中に思い描いている内容を聞き手に伝える。

以下の例文における「～ッテ」は、話し手が心中に描いた思い、話し手の思考内容を聞き手に伝えるという機能を持つ。心中表出では、他の3つの分類とは異なり、「所与とみなされたコトバを再現するもの」という特徴がわかりにくい、自分の心の中で一度思ったことを所与のコトバとみなし、それを実際に発言することで、再現すると考え引用に分類する。心中表出の機能を持つ「～ッテ」には、「～ト」に言い換えられるものと、「～ヨ」に言い換えられるものの2種類がある。この2種類は共に心中に描いた思いを聞き手に伝える働きを持つが、その働きにも多少違いがある。「～ト」に言い換えられる「～ッテ」は、話し手が心中に思ったことを比較的そのままの形で聞き手に伝える。これに対し、「～ヨ」に言い換えられる「～ッテ」は、話し手が心中に思ったことを聞き手に受け入れることを促す働きを持つ。これら2つを別々に見ていく。

2.4.1. 思考内容伝達の「～ッテ」

思考内容伝達の「～ッテ」の特徴を以下に挙げる。

(44) 思考内容伝達の「～ッテ」の特徴

- a. 「～ト」に言い換えても元の文と全く意味が変わらない。
- b. 「～ッテ」には思考内容を表す動詞が後続する。

「～ト」に言い換えられる「～ッテ」文において、引用文と引用構文が発せられた時点で何らかの境界線、例えば時間的な差や場所の違いが無い場合、つまり、引用文と引用構文が同時点において発話された場合の「～ッテ」は、引用の機能ではなく、心中に描いた思いを聞き手に伝えるという機能を持つ。この時、実際に発話されたものではなく、発話者の考えていることが引用文の内容となる。

またこの時、「～ッテ」には思考内容を表す動詞（思う、考える、信じる、感じる、わかる、知る、見える、気づく、判断する等）が後続する。

- (45) a. お父さん、私のこといつまでも子どもだって思わないで。
- b. お父さん、私のこといつまでも子どもだと思わないで。

- (46) a. 今日はお世話になりました。また来ようって思います。
- b. 今日はお世話になりました。また来ようと思います。

- (47) a. 「何人のことみて笑っているのよ」「いや、可愛いなあって」
- b. 「何人のことみて笑っているのよ」「いや、可愛いなあと」

- (48) a. 本当に、ここまで大きくなれたのは、お父さんとお母さんのおかげって思います。
- b. 本当に、ここまで大きくなれたのは、お父さんとお母さんのおかげと思います。

- (49) a. 今は気づかれてなくたって、毎日真面目に努力すればいつか報われるって信じてる。

- b. 今は気づかれてなくなって、毎日真面目に努力すればいつか報われると信じてる。

(45)の例文では、「～ッテ」文の引用文にあたる「私のこといつまでも子どもだ」と、引用構文である「お父さん、私のこといつまでも子どもだって思わないで。」が発話された時点が一致している。また、引用文である「私のこといつまでも子どもだ」は実際に発話されたものではなく、話し手の心中で考えられたことである。この場合、「～ッテ」は直接引用や伝聞ではなく、心中に描いたものをそのままの形で表出する機能を持つ。

2.4.2. 押し付けの「～ッテ」

以下に押し付けの「～ッテ」の特徴を挙げる。

(50) 押し付けの「～ッテ」の特徴

- a. 「～ヨ」に言い換えても元の文と全く意味が変わらない。
b. 「～ッテ」が文末にくる

「～ヨ」に言い換えても元の文と意味が変わらない「～ッテ」文は、話し手が心中に描いている思いを聞き手に受け入れることを促す機能を持つ。この用法においては述語の有無は関係なく、「～ッテ」を文末に持ってくるのが可能である。

- (51) a. お父さん早く帰ってきて。おじいちゃん死んじゃうって。
b. お父さん早く帰ってきて。おじいちゃん死んじゃうよ。

- (52) a. こんなことになるなんて絶対おかしいって。
b. こんなことになるなんて絶対おかしいよ。

- (53) a. 原田、いい加減ふざけるなって。
b. 原田、いい加減ふざけるなよ。

- (54) a. 「これおいしいって」「わかったって」
b. 「これおいしいよ」「わかったよ」

- (55) a. 大丈夫。お兄ちゃん元気になるって。
b. 大丈夫。お兄ちゃん元気になるよ。

- (56) a. これで最後だから、噂がたつたって、信じてって。
b. これで最後だから、噂がたつたよ、信じてよ。

- (57) a. 「ねえ聞いている？」「眠たいんだって」
b. 「ねえ聞いている？」「眠たいんだよ」

- (58) a. いつまでも親に甘えたらだめだって！
b. いつまでも親に甘えたらだめだよ！

(56)の例文では、「ねえ聞いている？」という問いに対し、一度出て来た「眠たい」というコトバを再現したのではなく、話し手の「眠たい」という状態を相手に伝えるという役割を「～ッテ」が担っていると考える。

3. 話題を引き出す機能を持つ「～ッテ」

(59) 主題の機能を持つ「～ッテ」の特徴

- a. 「～ハ」、「～トハ」または「～トイウ」に言い換えても元の文と全く意味がかわらない。
- b. 「～ッテ」には引用文と補語の関係にある述部または、聞き手に意見を求める動詞が後続する。
- c. 引用文がこれから話す内容の主題である。

佐治圭三(1991)では、「主題は話し手が、それについて解説・説明すべき題目として提示したもの」とされている。また、北原(1976)では、主題とは「日本語で述語と対応するのは主語ではなく主題なのである。文末と呼応して、一文を完成されるもの。」とある。本論文では、主題とは「話し手がそれについて解説・説明すべき題目を提示したもの」とする。

話題を引き出す「～ッテ」を言い換えられる他の助詞、「～ハ」「～トハ」「～トイウ」に分けてみていく。

3.1. 「～ハ」に言い換えられる「～ッテ」

以下の例文は、「～ハ」に言い換えられる「～ッテ」文である。

- (60) a. お母さんが大好きな花って何？
b. お母さんが大好きな花は何？
- (61) a. 世界で一番大きい花って何？
b. 世界で一番大きい花は何？
- (62) a. あの有名な国会議員の家ってどこ？
b. あの有名な国会議員の家はどこ？
- (63) a. 5年前から使っているこの扇風機ってどこで買ったの？
b. 5年前から使っているこの扇風機はどこで買ったの？
- (64) a. (目標を達成して涙を流している人を見て) うれし涙って素敵だ。
b. (目標を達成して涙を流している人を見て) うれし涙は素敵だ。
- (65) a. え？それって本当？
b. え？それは本当？
- (66) a. 春って嬉しい。
b. 春は嬉しい。

上記の例文は、すべて引用文に体言がきている場合である。引用文に用言がくる場合の例文も挙げる。

- (67) a. 春が終わるって寂しい。
b. *春が終わるは寂しい。

- (68) a. 明後日から友達と海外に旅行するってわくわくする。
b. *明後日から友達と海外に旅行するはわくわくする。

(67)の例文では、引用文には「春が終わる」という主語と述語を持った文がきている。(67a)は、容認出来るが、(67b)のように「～ッテ」を「～ハ」に言い換えると日本語として成立しない非文になってしまう。この事から、「～ハ」に言い換えられる「～ッテ」の制限として、「～ッテ」には体言、用言どちらも後続出来ること、引用文には体言のみしかこれないことが挙げられる。

3.1.1. 「～ッテ」と「～ハ」

話題を引き出す「～ッテ」で、「～ハ」と言い換えられるものの中にも、助詞の違いだけで言い換えられなくなる場合がある。以下の例文がそれである。

- (69) a. トーマスって来ました？
b. ??トーマスは来ました？
- (70) a. ??トーマスって来ました。
b. トーマスは来ました。

平叙文か疑問文かの違いしかない例文であるが、疑問文である(69)では「～ハ」の文は日本文として容認しにくく、平叙文である(70)では「～ッテ」の文は日本文として容認しにくくなる。これは、「～ッテ」が引用文に焦点を絞るという機能も持っているからだと考える。「～ッテ」に対し、「～ハ」は焦点を絞る機能を持たない。(69)の例文では、「トーマス」が来たかどうかを尋ねる疑問文であり、文の焦点は「人」である。よって「トーマス」に焦点をあてている「～ッテ」文のみ容認出来る。(70)の例文では、「トーマスが来た」ことを伝える文であり、文の焦点は文全体である。よって、「トーマス」のみに焦点をあてている「～ッテ」文は容認しにくい文となる。

3.2. 「～トハ」に言い換えられる「～ッテ」

以下の例文は、「～トハ」に言い換えられる「～ッテ」文である。

- (71) a. 「昨日学校の近くのコンビニで彼に会った」「彼に会ったって？」
b. 「昨日学校の近くのコンビニで彼に会った」「彼に会ったとは？」
- (72) a. 一度過ぎた時間は戻らない、もう過去には戻れないって悲しい。
b. 一度過ぎた時間は戻らない、もう過去には戻れないとは悲しい。
- (73) a. 明日から社会人って不思議な気持ちだ。
b. 明日から社会人とは不思議な気持ちだ。
- (74) a. 春が終わるって寂しい。
b. 春が終わるとは寂しい。
- (75) a. 卒論の準備をするために、今日集まるって本当？
b. 卒論の準備をするために、今日集まるとは本当？
- (76) a. ねえ角田、今日学校が休みって知ってた？

b. ねえ角田、今日学校が休みとは知ってた？

- (77) a. (お気に入りの定食屋にて) 今日が定休日って知らなかった。
b. (お気に入りの定食屋にて) 今日が定休日とは知らなかった。

「～トハ」に言い換えられる「～ッテ」の制限として、「～ッテ」には用言のみしか後続出来ないこと、引用文には用言がくる場合が容認性が高いことが挙げられる。引用文に体言がくる場合は更に制限がかかる。引用文に体言がくる場合をしてみる。

- (66)' a. 春って嬉しい。
b. 春は嬉しい。
c. 春とは嬉しい。(気温の低さは変わらないが、桜の蕾が開いているのを見つけて)

(66)'の例文では、引用文には「春」という普通名詞がきている。(66a)'と(66b)'を比べた場合、意味に違いは生じない。両者とも、「春」というものが嬉しいという意味を表す。これに対し、(66c)'は日本語としては非文にはならないが、元の「～ッテ」文と全く同じ意味であるとは言えない。(66b)'の場合、それまでと気温が変わらず冬であると思っていたが、偶然桜の蕾を見つけて思いがけず春の訪れを感じ、もう春なんだなという意外性を含んだ文になる。岩男(2001)では引用構文とトハ文に関して、トハ文が「意外」を表す性質を持つことを示している。本論文では、元の「～ッテ」文と全く同じ意味を持つことが言い換えられると判断する条件であるとするので、元の「～ッテ」文と意味が変わってしまうことから、引用文に名詞句を受ける場合は「～トハ」に言い換えることは容易ではないと考える。ただし、引用文に体言がこないという事は無く、用言がくる場合よりも容認性が低く、引用文にくる体言そのものの性質を問う場合や、不変の事実として一般知識となっている場合が多い。

- (78) a. 春って冬の次にくる。
b. 春とは冬の次にくる。

(77)の例文は、「春というものが冬の次にくる」という不変の事実を表すものである。この時、引用文が名詞句の場合は、「～ッテ」、「～トハ」の双方に言い換えることが可能である。引用文が述部を含む文である場合は、引用文の内容が不変の事実を表すものに限らず、「～ッテ」、「～トハ」のどちらでも言い換えが出来る。以下の例文も同様である。

- (79) a. 砂糖って甘いものだよね。
b. 砂糖とは甘いものだよね。
- (80) a. 氷って水が固まったものである。
b. 氷とは水が固まったものである。
- (81) a. 生き物はいつか必ず死んでしまうって誰でも心の中ではわかっている。
b. 生き物はいつか必ず死んでしまうとは誰でも心の中ではわかっている。
- (82) a. チョコレートがカカオの実から抽出されているって知ってる？
b. チョコレートがカカオの実から抽出されているとは知ってる？
- (83) a. 太陽が東から昇って西に沈むって絶対に変わらないことである。
b. 太陽が東から昇って西に沈むとは絶対に変わらないことである。

上記の例文は、全て引用文が不変の事実であるため、引用文に体言がきても文として容認出来た。引用文が不変の事実を表さない体言の場合を以下に載せる。

- (84) a. 一昨日隣のクラスに転入してきた転校生の女の子って、可愛いね。
b. *一昨日隣のクラスに転入してきた転校生の女の子とは、可愛いね。

(84)の例文のように、引用文が個人の意見や不変の事実では無い場合は、引用文に体言がくると「～トハ」では言い換えられなくなる。

3.3. 「～トイウ」に言い換えられる「～ッテ」

以下の例文は、「～トイウ」に言い換えられる「～ッテ」文である。

- (85) a. 今日学校が休みってこと知ってた？
b. 今日学校が休みということ知ってた？
- (86) a. 下田君が転校するって噂本当？
b. 下田君が転校するという噂本当？
- (87) a. 日本人は、空が暗くなってきたらこんばんはって挨拶をするの。
b. 日本人は、空が暗くなってきたらこんばんはという挨拶をするの。
- (88) a. 花田さんが昨日みんなの前で歌ったって歌知ってる？
b. 花田さんが昨日みんなの前で歌ったという歌知ってる？
- (89) a. こんばんはって挨拶は何時くらいからするんですか？
b. こんばんはという挨拶は何時くらいからするんですか？
- (90) a. 君がいて良かったって気持ち大事にするよ。
b. 君がいて良かったという気持ち大事にするよ。

「～トイウ」に言い換えられる「～ッテ」の制限として、(85)のように、「～ッテ」には体言のみしか後続出来ないこと、(86)のように、引用文には用言のくる場合が多いことが挙げられる。

「～ハ」、「～トハ」、「～トイウ」に言い換えられる「～ッテ」の持つ機能が、引用文が引用構文の主題であることを示すことには変わりはないが、「～ッテ」に後続する成分、引用文にくることの出来る成分にそれぞれ制限があることがわかる。

3.4. まとめ

以上から、話題を引き出す機能を持つ「～ッテ」文において、次のことが言える。「～ハ」に言い換えられる「～ッテ」文は、文法の観点から引用文に名詞句しかこれないが、述語を伴う文を入れても意味としては通じる。これに対し、「～トハ」に言い換えられる「～ッテ」文は、引用文に述語を伴う文がくることが多いが、名詞句もくることがある。「～トイウ」に言い換えられる「～ッテ」文の引用文に文法の制限は無い。

また、話題を引き出す「～ッテ」には、主題と補語の関係にある述部（嬉しい、楽しいなどの形容詞や、不思議だ、綺麗だ、などの形容動詞）や、聞き手に意見を求める動詞（知ってる？などの疑問文）が後続することが多い。これに対し、「～トイウ」に言い換えられる「～ッテ」は特殊で、後続するものは名詞句のみという制限がつく。

4. 逆接の機能を持つ「～ッテ」

逆接の機能を持つ「～ッテ」の特徴を以下に挙げる。

- (91) 逆接の機能を持つ「～ッテ」の特徴
- 「～テモ」もしくは「～デモ」と言い換えても元の文と全く意味が変わらない。
 - 「～ッテ」ではなく、「～タッテ」の形で使われる。
 - 引用文の主語は問わない。
- (92) a. あの時もっと勉強しとけば良かったと言ったって、今更遅いんだよ。
b. あの時もっと勉強しとけば良かった言っても、今更遅いんだよ。
- (93) a. 世界中のどんな宝石を集めたって、結局君は満足しないと思う。
b. 世界中のどんな宝石を集めても、結局君は満足しないと思う。
- (94) a. こんなに雪が降たって、電車は毎日走っている。
b. こんなに雪が降っても、電車は毎日走っている。
- (95) a. 山崎さん家の飼っている犬がどんなにかわいい犬たって、もしかしたらかみつくかもよ？
b. 山崎さん家の飼っている犬がどんなにかわいい犬でも、もしかしたらかみつくかもよ？
- (96) a. いくら世の中は金たって、やっぱり困ったときに助けてくれる友達や仲間がいなくて何も出来ないよ。
b. いくら世の中は金でも、やっぱり困ったときに助けてくれる友達や仲間がいなくて何も出来ないよ。
- (92)～(94)のように、引用文が用言の場合は「～テモ」に言い換えられ、(95),(96)のように、引用文が体言の場合は「～デモ」に言い換えられる。また、逆接の機能を持つ「～ッテ」は他の引用と主題を引き出す機能とは異なり、「～ッテ」ではなく、「～タッテ」で使われるという特徴を持っている。「～ッテ」ではないが、この場合の「～タッテ」は「～としたって」や、「～といたッテ」の「～とした」、「～と言った」などが省略されていると本論文では考え、「～ッテ」の機能分類に含むこととする。
- (97) a. 蒲池先生がいくら今日は帰っていい言ったって、宿題忘れたんであれば終わるまでやるのが当然でしょ。
b. 蒲池先生がいくら今日は帰っていい言っても、宿題忘れたんであれば終わるまでやるのが当然でしょ。
c. 蒲池先生がいくら今日は帰っていい言たとしたって、宿題忘れたんであれば終わるまでやるのが当然でしょ。
- (98) a. もしあの時浜崎が怒たって、何も変わっていなかったよ。
b. もしあの時浜崎が怒っても、何も変わっていなかったよ。
c. もしあの時浜崎が怒たとしたって、何も変わっていなかったよ。
- (99) a. これがかの有名なマリー・アントワネットが座った椅子たって、今見て彼女がい

るわけじゃないのにね。

- b. これがかの有名なマリー・アントワネットが座った椅子でも、今見て彼女がいるわけじゃないのにね。
- c. これがかの有名なマリー・アントワネットが座った椅子といったって、今見て彼女がいるわけじゃないのにね。

(97),(98)は「～たって」が「～としたって」の省略である場合、(99)は「～たって」が「～と
いったって」の省略の場合である。逆接の「～タッテ」がどちらの省略であるかは、文脈か
らの判断となる。また、「～タッテ」の他の助詞への言い換えの際に、(97)のように引用文が
用言で終わっている際は、「～テモ」で言い換えられ、(100)のように引用文が体言で終わっ
ている際は、「～デモ」への言い換えが可能である。「～ッテ」に後続する形としては、引
用文と逆接の関係にあたる文がくる。

5. 先行研究との比較

ここでは、今までの「～ッテ」の体系と本論文で示した新しい「～ッテ」の体系を比較するために、2つの先行研究を紹介する。森重（1965）と三枝（1997）である。

5.1. 森重敏（1965）

森重による「って」の分析は、「いう」（本論文では引用文）の主語が誰であるかという観点から行なわれている。主者とは話し手、対者とは聞き手、他者は第三者を指し、全体者とは主語全般を指す。

(100) 森重(1965)のまとめ

「いう」の主語	文例	意味
特定の個別	お上手だ <u>って</u> ほめてたわ。	引用
不特定の個別	君は絵の方もやるんだね	伝聞
対者	なんです <u>って</u> ？	反芻的反問
対者～主者	誰か <u>って</u> 決まっているよ。	反復
主者（全体者性）	早くしろ <u>って</u> ば。お父さん <u>って</u> 。	喚体
全体者	お姉さま <u>って</u> ばだめよ。	「は」
全体者	クウ <u>って</u> うちの犬だよ。	「とは」「というのは」

5.2. 三枝令子（1997）

三枝（1997）では、「って」が文に現れる位置、主文の述語の種類、「って」が受ける発話者などの統語的条件に注目して、「って」が引用とは異なる用法を持つことを示している。三枝は、「って」を引用と逆接の2つに大別している。

5.2.1. 引用の「って」

三枝（1997）は、引用の「って」を引用、話題の引き込み、反復、伝聞、言いつけ、問い返し、強調の7つに分類している。この分類の特徴をそれぞれ見ていく。

(101) 三枝 (1997)の「引用」

引用	<p>発話の主体が特定される。 発話・思考動詞のあることが多い。 「〜と」への言い換えがこの場合しか起こらない。</p> <p>「お互いにこれば自分のとうちゃんだ、これはおれの子だって、しんから底から思えばそれが本当の親子なのさ」 (三枝 1997(5))</p>
反復	<p>聞き手の話しを引用しながら、その発話を直接うける動詞がないもの。</p> <p>「おれが松田さんをへこましたって、冗談じゃあねえ」 (三枝 1997(19))</p>
話題の引き込み	<p>主語と述部という対応関係を持つ。</p> <p>「美代子、愛敬よく剛に笑いかけて「剛さんって、結婚にどんな夢とか希望を持ってらっしゃるんですか。」 (三枝 1997(22))</p>
伝聞	<p>主語が不特定の第三者。</p> <p>「この八重歯は抜けるんですって、はたちになれば抜けるんですってよ」 (三枝 1997(31))</p>
言いつけ	<p>第三者が特定される。 発話内容をそのまま伝えるのではなく、驚きや疑いも含める。 一緒に聞き手に言いつける感じ。</p> <p>「穴山さんが心当たりの学生はすべて当たったから、後は青木クンに任せるって。それから自分の部屋だけでもいいから、ちゃんと掃除するように、だって」 (三枝 1997(34))</p>
問い返し	<p>上昇イントネーションになる。 無くても意味が変わらない。(終助詞に近い)</p> <p>「猫かもしれないね」 「猫だって？」 (三枝 1997(35))</p>
訴えかけ	<p>自分の考えを人に認めさせようとする押し付けの意味合いがある。 発話文の内容が強調される。 「よ」と言い換えが出来る。 話し手の発話を受ける。 省略出来る。</p> <p>「よせったら」 (三枝 1997(43))</p>

5.2.2. 逆接の「って」

三枝 (1997)は、逆接の「って」「だって」を逆接、主題の添加、反発の3つに分類している。

(102) 三枝 (1997)の「逆接」

逆接	<p>「だって」の前には、その状況では普通は想定されにくいものごとや人がくる。</p> <p>「こわれたラジオじゃあるまいし、叩いた<u>って</u>音はでないって」 (三枝 1997(47))</p> <p>「会社盛り返した<u>って</u>、社長がくたばっちゃったら、元も子もないぜ。」 (三枝 1997(48))</p>
主題の添加	<p>「って」が受けるものの名詞性が強まると、「だって」は「も」に置きかえられる。</p> <p>「たとえば日本のビール業界は気の毒で、税金は別としても、電気代<u>だ</u><u>って</u>米国の2倍から2.5倍も使ってアルミ缶を作る。」(三枝 1997 (64))</p> <p>「台所でゴキブリを見つければ、私<u>だ</u><u>って</u>たたいて殺すし、ハエが飛び回れば外に出すか捕まえて殺す。 (三枝 1997(63))</p>
反発	<p>「だ」 + 「て」という語構成</p> <p>「だって」は、相手の発話や意図を受ける点では引用、相手の発話への反発と、自分の発話、考えの正当化を図ろうとすると逆接</p> <p>「あの人文科でしょ、文科をやってゆくには貧民階級の生活を知ることが第一なのよ、<u>だ</u><u>って</u>さ、貧民階級のほかに人権問題を全滅する道はないじゃないのよ」 (三枝 1997(67))</p>

5.3. 三枝(1997)に対する指摘

三枝(1997)に対する指摘が2つある。三枝(1997)では「～ッテ」を引用と逆接の2つに大きく分類しているが、引用に分類されている話題の引き込みは明らかに伝聞、問い返しなどとは異なる「～ッテ」だと考えたほうがよい。また、逆接に分類されている主題の添加は逆接の意味を持っておらず、主題を表す「～ッテ」であると考え、三枝 (1997)の分類では不適切だと思う。

6. まとめ

本論文で提案した、いわゆる引用の助詞「～ッテ」の分類をまとめると、以下の通りになる。

(103) 本論のまとめ

～ッテ		言い換え	引用文の主語	引用文の形	後続する形	その他
引用	直接引用	～ト	特定	○	動詞	2種類
	伝聞	～ラシイ	不特定	用言	文末	
	問い返し	～トハ、 ～ト	直前の聞き手	○	動詞、文末	疑問文
	心中表出	～ト、～ヨ	話し手	用言	動詞、文末	2種類
主題		～ハ	×	体言	動詞、補語に	
		～トハ		用言多い	あたる述部	
		～トイウ		用言多い	体言	
逆接		～テモ	×	用言	文	～タッテ の形
		～デモ		体言		

また、各用法に該当する例を、下記に挙げる。

(104) 「引用」

- a. 直接引用
美智子は「こんなに幸せな誕生日は初めて」って言ってたよ。
- b. 伝聞
明日は朝からこの冬一番の冷え込みになるって。
- c. 問い返し
「風邪のひき始めには、これを飲むと良いよ」
「これって？」
- d. 心中表出
「私はやっぱり今日は遊びに行かない方が良いって思うんだけど」
「そんなこと無いって」

(105) 「主題」

- a. 石橋さんって来夏に結婚するの？
- b. 来月から駅ビルがオープンするって知らなかった。
- c. 世界で今一番有名な女優が日本に来るって噂本当？

(106) 「逆接」

- a. 隣の部署の佐藤さんは、どんなに食べたって太らないんだって」
- b. どんなに喉から手が出るほど欲しい宝石ったって、盗んだらだめだよ。

上記から、一見して引用助詞として扱われる事の多い「～ッテ」には、引用以外にも主題を引き出したり、逆接であったりと、別の重要な意味が多く含まれていること、また、機能や用法の違いには、引用文の主語も大きく関わっていること、引用文や「～ッテ」に後続する形には、一定の制限がかかることもわかった。

参照文献

- 岩男考哲 (2003) 「引用文の性質から見た発話「～ッテ。」について」『日本語文法』3-2: 146-162. 東京: くろしお出版
- 岩男考哲 (2001) 「引用構文と「トハ文」」『日本語・日本文化』32: 63-72. 大阪: 大阪大学.
- 金善眞 (2005) 「「～ッテ」文の引用的性質と機能」『日本語文法』5-1: 70-88. 東京: くろしお出版.
- 藤田保幸 (2000) 『国語引用構文の研究』大阪: 和泉書院.
- 鎌田修 (2000) 『日本語の引用』東京: ひつじ書房.
- 日本語記述文法研究会(編) (2008) 『現代日本語文法 6 第 11 部 複文』東京: くろしお出版.
- 佐治圭三 (1991) 『日本語の文法の研究』東京: ひつじ書房.
- 大野晋・柴田武(1976) 『岩波講座日本語 6 文法 I』東京: 岩波書店.
- 益岡隆志・仁田義雄・郡司隆男・金水敏 (1997) 『言語の科学 5 文法』東京: 岩波書店.
- 大塚明郎・井上和子 (1983) 『講座現代の言語① 日本語の基本構造』東京: 三省堂.
- 森重敏 (1965) 『日本文法－主語と述語－』東京: 武蔵野書院.
- 三枝令子 (1997) 「「って」の体系」『言語文化』34: 21-38. 東京: 一橋大学.

